

ミカンが捨てられた場所に出没するイノシシ成獣を箱わなで捕獲する技術



静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 森林育成科 上席研究員 水井陽介

一 はじめに

令和元年度の野生鳥獣による農作物被害額は全国では約158億円、このうち静岡県では約2億9千万円となっています。当県の被害額は、最も多かった平成21年度の約5億4千万円をピークに直近10年間は減少傾向ですが、依然として大きい被害が発生しており早急な対策が求められています。令和元年度の県内の獣種別の被害を見ると、イノシシが全体の約47%を占めており、最

も大きな被害を与えています。

イノシシの被害対策の一つとして、現地で箱わなによる捕獲が行われています。

今回の記事では、イノシシの加害を受ける農作物の中でも被害が大きいミカン産地で箱わなによる捕獲技術について紹介します（写真1）。

二 イノシシの繁殖時期及び個体数を減らすための捕獲

イノシシは晩秋から冬にかけて交尾を行い、5月から6月頃に出産のピークを迎え、平均4頭から5頭の子を出産します。産まれた幼獣のうち、約半数が成獣になると言われています。また、上記の時期に出産できなかつたり出産したがすべての子供が死亡した場合は春から夏にかけて再び発情期を迎え、秋に出産することもあります。

出産のピークが5から6月であること、幼獣は成獣に比べて死亡率が高いこと、春に産まれた幼獣を捕獲しても成獣が再度出産する可能性が



写真2 箱わなに対する警戒心の違い (奥:幼獣、入り口:成獣)

あることを考慮すると、イノシシの個体数を減らすためには5月以前に成獣を捕獲することが重要となります。しかし、これまでの研究でイノシシの成獣は幼獣に比べて警戒心が強く、箱わなに入りにくいことが分かっています（写真2）。

三 冬に捨てられたミカンがイノシシに与える影響

ミカン産地ではミカンを出荷する11から4月に、出荷調整の際に生じ



写真3 捨てられたミカンを食べるイノシシ

の中と周辺に配置しました。併せてイノシシが箱わなの中に長く留まるように箱わなの中に米ぬかを配置して捕獲を行いました。捕獲に取り組んだ結果、4月12日に成獣2頭、4月15日に成獣2頭を捕獲し、合計4頭（オス1頭、メス3頭）の成獣を捕獲することが出来ました（写真4）。

このことから、ミカンが捨てられた場所、ミカンと米ぬかを餌として箱わなを設置することで、イノシシの出産ピークにあたる5月より前に成獣を捕獲出来る可能性が示唆されました。

五 本技術による捕獲のメリットと注意点

本技術は農作業の一環であるミカンを捨てる作業を利用して実施するため、箱わなによる捕獲を行う際に必要な作業の一部（箱わなの設置場所の選択、定期的なエサを配置し、イノシシを餌付けする作業）を省略することが出来ます。また、ミカンに対する執着が強いイノシシを捕獲することになります。

捕獲を行う際の注意点として、誘引に用いるミカン以外は箱わなの周辺に捨てないことが重要です。また、警戒心が強い成獣が箱わなに入ってからわなが作動するように、蹴り系

れることは通常であれば餓死するはずの個体が生き残ることや出産する子供の数が増えることに繋がる可能性があります。また、イノシシは一度ミカンの味を覚えるとその味に強く執着することから、次作の被害を発生させる原因になります（写真3）。

四 ミカンが捨てられた場所に出没するイノシシが出没する回数および箱わなによる捕獲

箱わなでイノシシを捕獲する場合、通常、箱わなの中と周辺にエサ

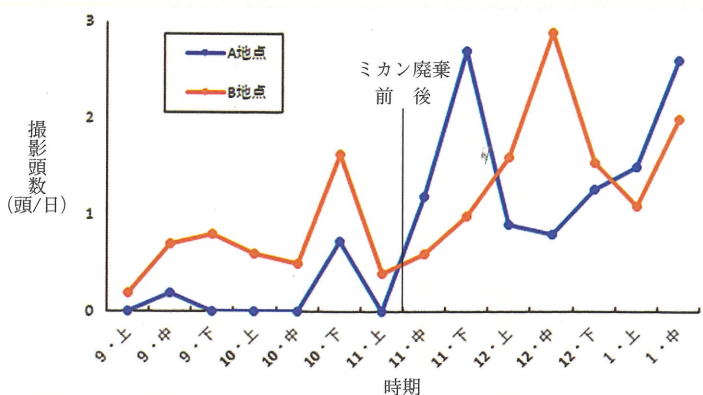


図1 ミカンの捨てられた場所におけるイノシシの撮影頭数



写真4 箱わなに捕獲されたイノシシ

を配置して誘引します。当センターでは、ミカンが捨てられた場所に出没するイノシシはミカンを繰り返し食べることでその味に対する執着が強まるため、箱わなのエサとしてミカンを利用すればイノシシを捕獲できると考えました。

ミカンが捨てられた場所に出没するイノシシの出没回数を調査するため、平成30年9月から6カ月間自動撮影カメラを設置したところ、ミカンが捨てられ始める11月上旬を境にイノシシの撮影頭数が増加したことを確認しました。このことから、捨てられたミカンによってイノシシが出没する回数が増えることが分かりました（図1）。

また、平成30年3月2日からミカンが捨てられ始めた場所に箱わなを設置し、エサとしてミカンを箱わな

式の箱わなではトリガーとなる糸を通常より高くして下さい（高さの目安は40cm）。

六 産地としての取り組み

本稿の内容は捕獲には有効な技術ですが、ミカンを山に捨てることはイノシシ等の野生鳥獣のミカンに対する執着を強め、被害を拡大させる原因になります。被害を減らすためには、ミカンを適切に処分し、野生鳥獣に食べさせないよう心がけることが大切です。労力等の問題で山にミカンを捨てるを得ない場合には併せて捕獲にも取り組み、ミカン好きなイノシシを増やさないよう、産地として協力していただきたいと思います。

本稿の内容は当センターのホームページ、YouTubeでも解説動画を配信しておりますので、参考にしてください。

HP: <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-850/>
YouTube: <https://www.youtube.com/watch?v=3u1E3iBxVD4&t=10s>

連絡先

浜松市浜北区根堅2542の8
静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 森林育成科
FFPR@pref.shizuoka.jp